



○中頓別小学校卒業式の様子

中頓別小学校卒業式の詳細は、P9「まちの話題」をご覧ください。

# 令和4年度

## 町政執行方針

中頓別町長

小林 生吉



はじめに

新型コロナウイルス感染症は、社会、経済、地域、そして家庭やひとりひとりの生活に大きな影響を与え続けています。中頓別では、町民のみなさんが粘り強く感染対策を講じながら懸命にこの苦しい状況を乗り越えようとされています。私は、心から敬意を表するとともに、乗り越えた先にこうした努力が報われる地域であるために、町民のみなさんとともに、まちづくりに取り組んでいかなければならないと決意を新たにしています。

コロナは、地域が多くの役割と仕

事を担う人で成り立ち、そのひとつひとつがとても大切であるとともに、それらがつながりを持って成り立っていることを浮き彫りにしたと思います。ひとりひとり、ひとつひとつ、そのすべてを大切に、きめ細やかにまちづくりを進めていきたいと思えます。

これまで進めてきた大きな柱である、ひとりひとりに寄り添った子ども・子育て支援と教育の充実、すべてのひとにやさしい地域共生社会の実現をめざして取り組んでいきます。

さて、町の最上位計画となる第8期総合計画がスタートします。コロナ感染症の影響を受けながらも、多くの町民のみなさんにアンケートやワークショップでご参加いただき策定することができました。それぞれの人生の選択をテーマに、分岐点ごとに課題を見つけ、この町でのしあわせな暮らしをデザインしていくというのが計画のフレームです。「小さな中頓別（まち）のしあわせをデザインする」をキャッチフレーズとし、あたたかなつながりで安全安心な暮らし、知恵と経験を活かして人口減少に向き合う、参加と協働で豊かさを楽しさ

を生み出す縮充、きく・はなす・まなぶ・やってみる、を未来像として掲げています。そのために重点プロジェクトに位置付けられた事業の着実な推進を図るとともに、計画の策定過程で町民参加のもと提案のあった7つのアクションについての具現化に向けた取り組みを進めていきます。

人口減少問題・地方創生につきましては、総合計画と第2期人口ビジョン・中頓別町総合戦略に基づき、地方創生推進交付金を活用した事業をはじめとする各種取り組みを進めていきます。なお、新型コロナウイルス感染症対策は、地方創生臨時交付金などを活用ししっかりと感染対策、地域経済対策を進めていきます。重症化リスクの低減のために、基礎疾患の発症予防や重症化予防にも併せて取り組み、接種を希望するすべての町民がより早くワクチン接種ができる体制を継続し、町民の様々な不安に向き合い対応していきます。

### 1 教育「将来を生きる力を育むまち」

総合計画で行ったアンケートから、子どもたちは町に対する愛着をもつていても、大人になって住み続けられるとは想像できないという結果が見えてきました。町に残ってほしい、あるいは一度町を離れても

また戻ってきてほしいという思いがあります。子どもたちの都会志向やこの町ではなりたくない職業がないといった現実もあります。

この町の未来をこの町で生まれ育った子どもたちに担ってほしいし、あわせて、グローバルな人材として未来の地球のためにもこの町で育った子どもたちが活躍してほしいという思いもあります。子どもたちが町に残るか残らないかに関わらず、子ども・子育て、教育への投資は何ものにも代えがたい最も重要な施策だと考えています。

幼小中をとおして生きる力を育むまちづくり

子どもたちを取り巻く環境は、めまぐるしく変化し多様化し続いています。一方で急速に進む少子高齢化とともに人生100年時代に入っていくと言われていきます。子ども期をいかに過ごすかが大切であり、ひとりひとりの成長に寄り添い、個性を尊重し可能性を豊かに広げていくための取り組みを進めていかなければなりません。生きる力を育む、自己を確立して学び続ける人を育てる、そのために質の高い教育を保障するとともに、そのための環境整備を進めていきます。

昨年から幼小中一貫教育を柱とする「新しい学校づくり」に向けた構想づくりを進めてきました。

学校と地域の連携と協働を基本に教育委員会が中心となってまとめる構想をもとに、人生100年時代を迎えるにふさわしい学びの場であり、町民と子どもたちが触れ合える場としての「学校」を創り上げていくことに期待しています。

学力に偏することなく、ひとりひとりの個性と可能性を尊重した学びの場を、子ども、家庭、学校、地域が手を携えて丁寧につづっていくことが大切です。あらためて、「コミュニティスクール」のあり方を見直していく必要があります。認定こども園、小学校、中学校それぞれではなく、一貫した教育理念のもとひとつの「学園」として地域と一体となつて新しい学校づくり、学校運営を求めていきたいと考えています。

**子どもたちがいずれはまちに戻りたいと思える気持ちを育むまちづくり**

1人でも多くの子どもたちが町に残る、あるいは将来戻ってきてくれるためには、二つのことが必要だと思っています。

一つは、すでに述べさせていたただいたとおり、子ども・子育て、教育の充実を一丁目一番地に据えた施策の推進であり、もうひとつは多世代との交流、つながりを深めながらこの町の良さをしっかりと伝えていくことです。

新しい学校は、まさにそうした活動の拠点となるのだと位置づけています。地域にあるもの、地域が育んできた暮らしや文化を、子どもたちに伝えるとともに大切に育て磨いていくことが大切です。この町で生まれ育つたこと、そこでの豊かな経験を子どもたちへ贈り、忘れられない記憶に残してもらうことができたなら、子どもたちの未来も、この町の未来も豊かなものになります。そんな思いをみんなが共有できる、そんなまちづくりを進めていきます。

**大人もいっしょに学べるまちづくり**

人生100年時代へと進む中、生涯教育の役割は一層重要となりまふ。新しい創造的な活動を応援し、これまで行ってきた伝統ある文化、スポーツ活動も長く続けていける道筋を描いていかなければなりません。

町民センターは、放課後子どもプラザの活動拠点としての役割を果たしつつも、それ以外の利活用は残念ながら多いとは言えません。しかし、一方で新しい学校づくりとあわせて社会教育施設の再編と充実に向けた議論も行われてきました。認定こども園、小学校、中学校と地域の連携を図り大人も一緒に学べる教育の拠点として再生を図り、町民同士の交流機会を増やし、いきがいや心の健康増進、町民が笑顔で暮らせるまちづくりを進めていきます。

2 つ「資源を継承し新しい産業や働き方を生み出すまち」

今ある資源を継承し新しい仕事をつくるまちづくり

本町の基幹産業である酪農業では、草地畜産基盤整備事業を実施し、良質粗飼料の確保、酪農家の労働力の軽減と経営の安定化を図るため、哺育・育成牛の預託施設の整備を進め、町営牧場と連携した運営体制の確立を進めます。また、酪農振興支援事業や中山間地域等直接支払交付金交付事業、多面的機能支払交付金事業、農業担い手育成事業、なかとん牛乳等を活用した6次産業化推進事業、さらに醸造用ブドウの本格的な栽培に向けた圃場の確保や栽培計画等の具体的な検討を進めていきます。

林業では、森林環境譲与税を活用し、地域材の有効活用や森林整備をより一層進めるほか、木育活動などによる森林づくりへの理解・機運醸成を図ります。また、鉄道林などの町有林の施策計画策定、森林環境保全事業や民有林森林整備振興事業、森林整備担い手対策推進事業も継続して取り組み、計画的な路網整備を進めていきます。

商工業では、新型コロナウイルス感染症の影響で停滞する地域経済対策として、商工会が取り組むプレミアム商品券やクーポン券事業、施設

整備改修等に対する支援などを継続的に取り組むとともに、事業継承や起業などによる地域の商工業者数の維持や振興策について、関係機関と検討協議を行い活性化に向け取り組んでいきます。

観光振興では、新型コロナウイルス感染症の影響によって観光客の入込が見通せない状況ですが、コロナ明けの観光需要回復に向けて、新たな観光ニーズの調査や中頓別町ならではの魅力ある観光メニューづくり、台湾中華大学との連携事業によるインバウンド推進などを進めていきます。

**多様な働き方と暮らし方が選択できるまちづくり**

人口減少に歯止めがかからない状況ですが、2020年国勢調査時の人口は1,638人とそれまでの予測を上回り、人口減少が少し抑えられたかたちとなりました。働き方改革プロジェクトを通して、令和3年度に町の無料職業紹介所、くらしごと窓口を開設し、4月から特定地域づくり事業協同組合が始動します。定住や移住の促進に向け、仕事や暮らしに関する情報をワンストップで対応する「くらしごと窓口」、移住相談をはじめ町内の求人情報の発信や求職者への就業あっせんなどを行う無料職業紹介所

の運営を推進するほか、特定地域づくり事業協同組合による組合員への人材派遣事業を行われていくこととなります。今後はさらに、副業や短時間労働など多様な働き方、暮らし方を提案して、移住・定住につながる取り組みを推進していきます。

地方創生の新たな取り組みとして、「コモンズ形成事業」を実施します。住民共助、全世代型の幅広い支援、相談が行える仕組み作りを行い、町民の誰もが安心して暮らせる持続可能なまちを目指していきます。

### 3 福祉「誰もが健康で安心して暮らせるまち」

未長く安心して暮らせるまちづくり  
将来の人口減少を見据えた上で、最後まで安心して住み続けられる福祉のまちづくりを進めていかなければなりません。

これまで検討してきた地域医療提供体制と地域包括ケアシステムの構築の基本的な方向性を踏まえ、介護医療院の開設、在宅医療と在宅のための多様なサービスの拡充に取り組みを進めていきます。医師確保では長く苦戦を続けてきましたが、国保病院もようやく安定した医師2名体制を確立することができました。町民からの一層の信頼を

確立していけるよう取り組んでいきます。

中頓別らしさを大切に、高齢者、障がい者、子どもや若者、生きていくことにハンディを感じている人も含めて、すべての人がその人らしく生きていける共生社会の実現を目指していきます。

医療と福祉施設の人材確保が大きな課題となっておりますが、令和4年度は天北厚生園に初めて、外国人材を受け入れることが予定されています。中長期的な視点から、この町の医療や福祉の現場で働きたいと思ってもらえるような働き甲斐のある現場と受け入れのための環境づくりを進め、町、南宗谷福祉会が一体となって人材確保と育成に取り組んでいきます。

いくつになっても健康でいつでも元気にいられるまちづくり

幸福度アンケート調査では、幸福かどうかの判断で最も多く、5割近くが重視しているのが「健康」であり、「家族関係」や「経済状況」を大きく上回っていました。

健康づくりでは、これまで健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目指してきましたが、長引く新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されます。活動の機会や町民間の「ミニニケーション」の機会の減少を背景に、身体的・精神的・社会的な健康を

低下させている実態もあります。あらためて、すべての町民の健康に向き合っていくため、どんな取り組みをすべきかを再構築していかなければならないと考えています。新たな健康づくり計画策定に着手し、新たな時代の健康づくりを町民の皆さんとともに創り上げていきたいと思えます。

健診(検診)の受診率向上、保健師・栄養士による家庭訪問や個別相談、健康づくり講座や健康づくりセミナーなどを継続して取り組んでいきます。

妊娠・出産・子育て支援では、「なかとんネウボラ」を核にさまざまな相談に応じ、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援を提供し、新たな命の育みと子どもの健やかな成長を応援していきます。高齢者の健康づくりでは、「健康なかとん100(イチマルマル)めざせー健やか100歳」をスローガンにフレイル対策など高齢者の特性を踏まえた保健事業を、介護予防事業と一体的に推進していきます。

安全で快適な生活ができるまちづくり

強靱化、長寿命化を図るため、町道整備をはじめ老朽化が進んでいる橋梁、町営住宅などの修繕や改築、除雪車の更新、上下水道施設の整備など引き続き社会資本整備を

計画的に推進していきます。

防災対策では、新型コロナウイルス感染症対策を受けて2年間実施できていない町民参加の大規模な防災訓練を再開するとともに、避難所備品の整備、自主防災組織の組織化を推進していきます。ハザードマップの改定で市街地の浸水地区が広範囲に渡ることが判明したことを受け、大規模な避難所を含む防災センターの基本構想を樹立するとともに、マイタイムラインを含む要支援者台帳の作成に着手していきます。

消防、救急救命体制の強化では、耐暑・耐寒を取り入れた火災防御訓練による身体づくり、救急救命士養成・救急隊員の能力向上、全町全戸を対象に一般家庭の防火訪問の実施、住宅用火災警報器の100%設置を目指した促進活動、積雪地に適した多雪型の消火栓へ更新整備などに取り組んでいきます。開催を見送ってきた各種普及活動を再開、救急講習、防火講習のほか各機関、各自治会などに働きかけ、基本的な状況予測型図上訓練をはじめとした防災講習を開催していきます。ピンネシリ岳などでの雪山遭難事故や河川での救助事案などに備え、それぞれの事案に特化した専門的な救助知識と技術を習得していきます。

地域公共交通では、鉄道からバス

へと転換して30年以上たった天北線が、利用者の減少、国庫補助でなくなることに伴う財政負担の拡大で将来にわたって維持していくことは困難となりました。令和5年10月に向けて新たな交通体系への移行ができるよう具体的な運用についての検討、車両の購入などの準備を進めていくとともに、通院や買い物などに困る町民に向けた新たな交通サービスの提供に向けて検討を進めていきます。

町立自動車学校は、南宗谷各町村の支援を受け、今後も存続を図って高齢者講習など地域の交通安全センター的な役割を担っていきま。施設の老朽化も進んでおり、免許取得者や講習受講者のためにも改修に向けた検討を進めていきたくと考えています。

#### 4 環境「美しい自然を守り共生するまち」

ふるさとの自然に誇りが持てるまちづくり

第8期総合計画では、SDGs 17の目標が計画の施策目標と関連づけられています。計画の推進を通して、SDGsの目標達成を目指すとともに、気候変動への行動を力強く進めていくため、脱炭素・ゼロカーボンを宣言していきたいと考えています。電力の系統連系の

運用が弾力的になっていることも踏まえ、改めて地域の再生可能エネルギー導入の計画策定を行い、2050年脱炭素社会の実現に向けて着実な推進を図っていきます。総合計画と同時に進める予定だった次期環境基本計画の策定は「コロナの影響もあり実現していませんが、あらためて新年度で策定していきます。このほか、公共施設LED化の次の段階として、当町における大規模施設である福祉施設（天北厚生園、長寿園）のLED化を支援していきます。また、役場庁舎太陽光発電システムに連動する充放電設備及び電気自動車を導入し、電気自動車の蓄電池を利用した庁舎内への電力供給および寒冷地における電気自動車の利用について検証を行うていきます。特定外来生物（オオハシゴソウ）の防除および検証を引続き実施するとともに、淡水魚の生息調査では専門家を招いて生態系の実態を検証していきます。エゾシカやアライグマなどの有害鳥獣対策、年々目撃情報が増加しているヒグマの被害を防止するため、関係者と連携しながら推進するほか、狩猟者の確保・育成を図っていきます。

#### 5 自治体経営「持続可能なまちづくり」

町民が主役のまちづくり

情報を町民と共有し、住民参加を推進することが自治とまちづくりの基本であり、第8期総合計画はこの理念を具現化していくための計画にしなければならぬと考えてきました。策定過程では、「コロナの感染対策で多くの制約を受け、思うようにいかないところをオンラインでのワークショップ開催などで乗り越えていただきました。また、スマートフォンなどで詳細を閲覧できるウェブサイトを構築され、子どもにも見てもらえる機会を提供できるようになっていきます。町民提案による7つのアクションが盛り込まれていますが、それらの実現を後押しし、積極的に支援を進めていきます。また、計画全体の推進、評価などに対する町民主体のフォローアップ体制を整え、継続的に議論を進めながら計画の推進にあたっていきたくと考えています。

#### 創造的な自治体改革と健全な行政改革

情報共有と住民参加、この大切な理念をもとに、創造的に組織や施策を改革していく自治体経営に取り組んでいきます。

行政情報の発信手段として大きな役割を担うホームページの充実、SNS（ソーシャル・ネットワークキング・サービス）の活用を積極的に行う

ことで魅力ある町を発信できるよう努めていきます。

実質公債費比率（3カ年平均）はマインス1.5%で、令和3年度もほぼ同率で推移する見通しですが、国、地方とも今後の財政運営が厳しくなってくるのが予想されることから、将来的な財政規模の縮小を想定し、厳しい見通しをもって、より一層健全な財政運営に努めていきます。

行政運営では、職員の意欲向上に向けて人事評価の活用、研修による資質向上などに努め、自治体DXなど新しいステージに向けた組織づくりとカバランスの向上に取り組んでいきます。このほか、庁内情報基盤の整備、法務能力の向上、災害や感染症に備えた業務継続計画の整備、マイナンバーカードの普及促進、戸籍・住民サービスのワンストップ化など、必要な課題に取り組んでいきます。

以上、令和4年度の執行方針を述べさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症で短期的な動向が見通しにくい状況が続きますが、その先にある未来を見据えて粘り強く町政運営にあたり町民の付託に応えていく決意です。町民の皆様並びに町議会議員各位の尚一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

# 令和4年度

## 教育行政執行方針

中頓別町教育長

相座 豊



### 1 教育行政に臨む基本姿勢

現在、日本ではインターネットをはじめとした情報社会がめまぐるしく進展してきています。この先、人工知能(AI)が発達し、目に見えない情報空間と現実社会がより一体となって新たな生活空間を生み出すSociety(ソサエティ)5.0の時代に向かうと同時に、人生100年時代と言われる新しい社会の到来、あわせて、国際化への劇的な変化を求められております。

一方、この2年あまり新型コロナウイルスの蔓延により様々な行事をはじめ、人間同士の交流が滞らざるを得

ませんでした。令和4年度は、様々な活動が元通りに回復できるよう努めながら、持続可能な社会づくりをめざし、自分を確立して学び続ける人を育てるために、誰もが安心して質の高い教育を受け、いつまでも学び続けられる環境を整えていきます。

それでは、教育行政執行に当たり中頓別町教育大綱「1かしこく2やさしく3たくましく」を踏まえ、令和4年度の重点政策について申し上げます。

### 2 重点政策の展開

1 個性が輝き、明日の社会を担う人を育む学校教育の充実について

これまで中頓別町立認定こども園では、森のこども園事業で園児自ら進んで遊びを見つけ、判断し、夢中になって遊びこむことを通して、学校の「主体的・対話的で深い学び」につながる主体性、「ミニニケーション能力、体力の向上などを図ってまいりました。

また、年長児を中心に毎週行っている「英語であそぼう」により、基礎的英語能力の習得を図ってまいりました。

令和4年度は、日常の在園生活

の中でも子どもたちの様々な能力向上のために大規模な園庭整備を行います。子供たちの日常生活への影響を最小限にとどめるよう配慮しながら行います。

中頓別小学校は、配備したタブレットで、学校ばかりではなく家庭に持ち帰り担任が家庭学習のサポートをするなど、新型コロナウイルス感染症などによる学校閉鎖などが生じた場合にも対応できる活用の方法を試みてきました。令和3年度からは、北海道学校力向上に関する総合実践事業にも取り組み、管内で唯一北海道教育実践表彰を受けるなど、その成果が評価されているところであります。

こども園や中学校もICTを活用した情報発信に積極的に取り組み、パスワード設定などにより個人情報流出防止を心掛けながら、参観日や運動会などの学校行事の様子をYouTubeで公開するなど「開かれた学校」への新たな取り組みを始めています。

今後、ICT活用により時代に即応した学校経営の推進に努めます。

中頓別中学校は、とりわけ新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年でした。運動会、修学旅行、ハワイ語学研修、学校祭など主要な行事ほとんどすべてが、開催直前で延期という事態になりました。これらの行事は、学級や学校の結束力を

高める大事な行事でありましたが、教師と生徒が一体となって、成果を残すべくハンデを克服してきました。

ハワイ語学研修については、今年度は中学2、3年生を対象に実施し、現高校1年生についてはハワイで研修できるよう実施方法を含めて検討してまいります。

2 子どもの笑顔輝く学びを支援する環境整備について

一つ目は、新しい学校づくりについてです。

中頓別中学校は建設後53年を経過し老朽化が進んでおり、改築が喫緊の課題となっております。

教育委員会では、単なる学校施設の建て替えではなく、国が進めている公共施設の長寿命化と集約化、国土強靱化計画を踏まえた施設活用、林業振興に寄与する木材活用などを踏まえ、人生100年時代を迎えるにふさわしい学びの場であり、町民と子ども達が触れ合える場として、さらには、避難所としての機能を果たす学校とするため、令和7年の建設着工を目的に町民や子ども達を含めた、学校関係者から意見を聴取しながら、望ましい施設概要、それを実現するための場所選定に結びつくよう町長部局とも連携を図りながら取組を展開します。

令和4年度は、どんな教育施設と

するのかという基本計画を策定し、それにふさわしい学校の形、学校建設場所の選定について町民の皆さんや教育関係者などの意見も伺いながら令和7年度の建設着工に向けた計画を進めていきます。

二つ目は、学校と地域の連携と協働についてです。

現在、こども園、小学校、中学校にはそれぞれ学校運営協議会を設置し、学校運営などについて保護者代表や地域の方から了承を得ながら園や学校の運営を行っています。ただ、本来設置目的である学校と地域が協議しながら、地域にある学校を地域住民と先生達で作っていくという姿には、残念ながら至っておりません。

教育委員会としては、学校と地域が一体となって、新たな町づくりと教育効果の進展を図るため、組織と運営を見直し新たな学校運営協議会として再スタートし、新しい学校づくりへの基盤を作っていくよう計画的に取り組みを始めます。

三つ目は、小学校の遊具設置についてであります。

現在小学校は、従来の遊具が経年劣化で危険なことから撤去しており、子どもたちの成長の上で大変申し訳ない状態になっております。

早急に新たな遊具設置を検討していましたが、小学校が敷地として利用している一部に財務省の敷地

があることが判明し、時間を要してしまいました。最終的には、この敷地を町が買い取ることで設置の目途が立ちました。

新しい学校づくりの、新校舎建設場所のめどを早急につけて子供たちの学習に支障のないよう配慮しながら設置してまいります。

また、大人用プールの一部を浅くする台を設置し、小学校低学年児童が無理なく水に親しみ、水泳につながるよう支援していきます。

四つ目は、社会教育施設についてです。

教育委員会は、新年度から町民センターに移転します。現在、定期的に利用されている文化協会や学童保育機能をもった放課後こどもプラン、小学4年生から6年生までのおよそ65%が利用しているなかとん学習塾など、町の文化的拠点として、さらに、こども園、小学校、中学校と地域の連携を図る教育的拠点として役割を果たします。

そのためにも、町の図書室、柔剣道場、郷土資料館や町民体育館などを可能な範囲で集約化し、利用促進によって社会教育の充実を図る集約化を見据えた大規模改修について検討します。

あわせて、町民同士の交流機会をふやし、心の健康増進と笑顔で暮らせるまちになるよう現在の社会

教育施設活用についての工夫と検討を行います。

### 3 心の健康増進を図る生涯教育の充実について

「人生100年時代」を目前に控えている現在、心身ともに健康で暮らせるよう学校卒業後も、生き方の多様な要望・要求に応えられる生涯教育の充実が求められています。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった様々な事業の回復実施と更なる充実を目指します。

現在、町内には社会教育団体として文化協会とスポーツ協会があります。この団体活動に対する支援を従来通り行うことに加え、団体に所属していない町民も積極的に文化的活動に参加できるように新たな講座などの開催を目指します。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、このまま収束傾向に向かうことを前提に4点申し上げます。

一つ目は、町民文化祭についてです。町民文化祭は、規模を縮小するなどしてこの間開催してきましたが、令和4年度は従前の形で開催したいと思えます。体験講座などを更に充実させて、町民同士触れ合いながら文化に触れる事業になるよう実行委員会と連携して取り組みます。

二つ目は町民のスポーツ振興につい

てです。この間、中止してきた町民ソフトボール大会などの取り組みを再開するとともに、ここ数年幼児からの参加が増えてきたマラソンなどの持久走を学校と連携しながら支援するとともに、町民駅伝はさらににぎやかに開催できるよう工夫を加えるなどスポーツ協会と連携しながら幅広い年齢層の町民の健康増進をスポーツの面から支援いたします。

三つめは、「夢と希望を！感動体験事業」のプロスポーツ観戦などの事業再開です。これも、休止を余儀なくされてきましたが、自分で運動をするのは得意ではないけど観戦は好きという方も含めて迫力あるプロスポーツの試合を生で観戦できるようにします。

最後に、文化財の保護などについてです。道内に2か所しかない鍾乳洞をもつ本町はそれ以外にも、砂金や動植物など貴重な自然遺産がたくさんあります。自然を含めた文化財を保存しながら中頓別の良さを町民の皆さんと共有できるように取り組みます。

町民の皆さん並びに町議会議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。令和4年度の教育行政執行方針といたします。



## 気分爽快！ 歩くスキー教室

3月5日、12日に中頓別町寿スキー場で歩くスキー教室が開催されました。

両日合わせて、12名が参加しました。参加された方達は、寿スキー場のロッジ前からスタートし、寿地区の交通安全地藏尊まで歩くスキーで滑りました。地藏尊の前で安全祈願を行い、折り返し、寿スキー場で解散となりました。



## 親子で語って学ぶ 「あったらいい展」開催

3月11日から13日にかけて、中頓別町民センターで、学校づくり展覧会、「あったらいい展」が開催されました。

子ども達の作品や保護者アンケートなどを展示し、新しい学校にあってほしいアイデアを募集していました。その他出張なかとん学習塾やなかとんコレクションの授賞式などに多数の町民が参加しました。



## 平成29年度から令和2年度の取り組みを報告 醸造用ブドウ実証栽培の報告会の開催

3月10日、12日、中頓別町役場および中頓別町民センターで、醸造用ブドウ実証栽培の報告会が、それぞれ行われました。

10日は、中頓別町役場で開催され、多数の町民が参加しました。地域おこし協力隊の齋藤隊員から、中間総括として、「中頓別町でも醸造用ブドウの栽培は可能であること」などが報告されました。



令和5年度から、商業用ほ場に苗木を定植することや目標収穫量、ジャムなどの副産物の販売、収支見込などが報告されました。ワインの委託醸造の開始時期については、令和10年度からを目指し、また、地域でブドウ栽培やワイン醸造などを考えるため、準備会を設立し、イベントなどの企画、運営を行っていくと報告されました。





## 思い出を刻み、次の道へ 中頓別中学校卒業式

3月13日、中頓別町立中頓別中学校で、卒業式が行われました。

卒業生9人は、小林校長より卒業証書を受け取りました。式典終了後、担任である鈴木唯斗先生から、卒業生に向けて、これから人々に誇れる夢を持つことや仲間を大切にすることなどの言葉が贈られました。保護者や生徒からは先生へ花束などが贈られました。



## 3年間を振り返る 放課後子ども閉校式

3月17日、中頓別町民センターで、放課後子どもプランの閉校式が行われました。

23人の子ども達に参加し、放課後こどもプランでの思い出やスライドショーで振り返りました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、席を離し、皆で鑑賞しました。子ども達からは、「3年間で皆、成長した」など感想が話されました。



## 旅立ちの日に 中頓別小学校卒業式

3月19日、中頓別町立中頓別小学校で卒業式が行われました。

卒業生6人は、中頓別中学校の制服を着て、森校長より卒業証書を手渡されました。卒業証書を受け取った後に保護者のもとに行き、受け取った卒業証書と両親へ感謝の手紙を手渡ししました。最後には、皆で集合写真を撮り、小学校の校舎を後にしました。



## 4月からは小学生 認定こども園卒園式

3月26日、中頓別町立認定こども園で卒園式が行われました。

卒園児10人は、大島園長より卒園証書を手渡されました。卒園証書を受け取った後には、大島園長から、保護者の皆さんへ感謝の言葉と卒園児には、「毎日元気に小学校へ通うこと」「元氣よくあいさつをすること」の2つのお願いやアルバムなどの記念品が贈られました。



## 役場の各担当課にダイヤルイン(直通番号)ができました

これまで、代表電話のみのダイヤル番号となっていましたが、4月1日からご用件に合わせて、直接担当課へお電話いただけるようになりました。どこにかけて良いかわからない場合は、今まで通り代表電話へおかけください。

部署名	電話番号	お問い合わせの多い事項 抜粋
総務課総務グループ(代表電話)	01634-6-1111	人事、給与、職員厚生、町長秘書、防災などに関する事。
総務課政策経営室	01634-8-7671	予算、財政運用、政策総合調整、企画、各種計画、地域振興、環境政策、広報、広聴、統計、ホームページなどに関する事。
総務課住民グループ	01634-8-7660	住民登録、戸籍事務、国民年金、町税、交通安全、防犯、環境衛生、町民活動支援、マイナンバー、ゴミ処理、有害鳥獣(カラス、スズメバチ)などに関する事。
産業課産業グループ	01634-8-7662	農林業振興、町有林の造林保育、林野火災予防、畜産振興、町営牧場、農業基盤整備、林道整備、有害鳥獣(アライグマ、ヒグマ、エゾシカ)などに関する事。
産業課観光まちづくり推進室	01634-8-7663	商工業振興、観光、労働行政などに関する事。
建設課建設グループ	01634-8-7665	管財、公営住宅、町有車両管理、道路・橋梁の建設、道路及び河川に関する事務、建築物、町道維持管理、除排雪、水道、下水道などに関する事。
保健福祉課	01634-6-1995	保健予防、各種検診、栄養指導、保健指導、子育て支援、高齢者、障がい者福祉、母子、父子、寡婦、児童福祉、医療補助、介護保険、国民健康保険、後期高齢者医療、感染症対策などに関する事。
議会事務局	01634-6-2244	議会の円滑な運営、請願、陳情、議会だよりなどに関する事。
教育委員会事務局	01634-6-1321	入学、転学、教科書、学校給食、社会教育などに関する事。
出納室	01634-8-7666	現金の出納、指定金融機関などに関する事。

## 中頓別町地域づくり活動支援事業を募集します！

地域特性や地域資源を活かした地域づくりを推進する活動に対して補助金を交付します。申請を希望される方は、次の事項を確認の上、事業実施計画書および予算書などの必要書類をご提出ください。

補助対象 中頓別町内に住所を有する個人および団体

対象事業

- (1) 保健、福祉、医療に関する事業
- (2) 教育、文化、スポーツに関する事業
- (3) 農林水産業、商工業、観光の振興に関する事業
- (4) 環境保全及び創造、景観に関する事業
- (5) 移住・交流の推進に関する事業
- (6) 前各号に係る新たな事業を開始するための調査、研究、研修に関する事業
- (7) その他、地域振興に関する事業

対象経費

補助対象事業に要する経費のうち、人件費、食糧費、土地の取得に関する経費を除いた経費となります。なお、国または北海道の補助金もしくは他の事業団体から助成金などを受けている場合は、当該補助金などの額を補助対象経費から除くこととします。

補助対象経費	補助金の額			交付率
	上限額	下限額	単 位	
(6)を除く(1)~(7)	1,000万円	5万円	1万円	補助対象経費の1/2以内
(6)	1,000万円	2万円	1万円	補助対象経費の2/3以内

## いきいきふるさと推進条例をご存知ですか？

### 移住定住促進事業

- ・転入支援 生活情報誌、なかとん牛乳引換券配布 900ml×4本分
- ・就職祝金 商品券5万円

### 就学支援事業

- ・通学用バス定期運賃補助事業 バス定期運賃5割12か月(上限)
- ・高等学校等通学家庭補助事業 商品券10万円分(町外通学の場合も対象)

### 子育て支援事業

- ・出生祝 第一子・第二子：10万円(商品券5万円含む)
- 第三子以降：30万円(商品券5万円含む)
- ・絵本プレゼント

### 結婚支援事業

- ・結婚祝 一組30万円

※詳細につきましてはお問い合わせください。  お問い合わせ 総務課政策経営室(01634-8-7671)

# ダリン&マギーの ALT通信

file. 50



This article written by Ms. Maggie  
今月の担当はマギー先生

Hello Nakaton!

As the weather is slowly starting to get warmer, it's time to welcome new students into school with entrance ceremonies! In America, we usually don't have entrance ceremonies or any celebration for the start of the school year, so it's very exciting to be able to celebrate a new class joining the school.

The American school year starts in August, after a long summer vacation. At the end of summer, many stores offer "back to school" sales on just about everything—school supplies, food, clothing, electronics, even cars. Because of this, many kids get lots of new items at the start of the year, making them happier for school to start again. One of my favorite things as a kid was to get to go with my mom to pick out my new school backpack every year!

A big congratulations to this year's new 1st grade classes at elementary school and junior high school! I hope you can enjoy a fun year in a new school, and I'm looking forward to getting to have English classes with everyone!



こんにちは、中頓別の皆さん！

だんだん暖かくなってきたので、入学式で新入生を迎える時期です！アメリカでは入学式や入学祝いがないことが多いので、新しいクラスの入学を祝うことができるのはとても楽しいです。

アメリカの学年は長い夏休みの後の8月に始まります。夏の終わりになると、多くの店で学校に戻る販売が行われています。学校の備品、食料品、衣類、電子機器、さらには車など、ほとんどすべてのものについてです。そのため、多くの子どもたちが今年の初めにたくさんの新しいアイテムを手に入れることとなり、学校が再開されることが、より嬉しくなります。子どもの頃、私が一番好きだったことの一つは、毎年新しいカバンを選ぶために母と一緒にお店に行くことでした。

小学校と中学校の新1年生の皆さん、本当におめでとうございます！新しい学校で楽しい一年を過ごせることや皆さんと英語の授業ができることを楽しみにしています！

## 健康なかとんべつ21に向けて

新年度がスタートしました。保健師が所属するグループでは、新たに助産師が加わった他、地区担当や業務担当の変更もありました。新たな顔ぶれでまたスタートしていきますので、よろしくお願いいたします。

さて、皆さんは、「健康なかとんべつ21」という言葉を聞いたことがありますか？

町民の健康づくりを進める取り組みについての計画で、10年ごとに改定されます。次期計画は令和6年度からスタートするので、令和4年度、5年度の2年をかけて少しずつ計画を作り上げていきます。

健康なかとんべつ21は、中頓別町民全体の健康に関する計画になっておりますので、皆さんにもご協力をお願いしています。計画づくりのかたわら、広報では1年をかけて、中頓別の健康に関する様々な現状を伝えていきたいと思っておりますので、あわせて、ご自分の健康を振り返る機会にしてみてください。



4月号では「中頓別町民のがん事情」についてご紹介します！

日本人が一生のうちに  
がんと診断される確率  
「2人に1人」

### 日本人の死因

- 第1位 悪性新生物(がん)
- 第2位 心疾患
- 第3位 老衰

部位別内訳  
1位 肺  
2位 大腸  
3位 胃

## 中頓別の死因 第1位も悪性新生物(がん)です！

### 令和3年度中頓別町でのがん検診受診人数



胃がん検診……126人  
肺がん検診……179人  
大腸がん検診…149人

(※施設入所者を除く40歳以上：1,094人中、  
町で実施した検診受診者数)

日本の死因・中頓別町の死因とものがんが1位となっています。

早期発見できれば、治せる可能性が非常に高く、治療も軽くすむことが多いです！そのため、定期的に検診を受けることをおすすめしています。

## 令和4年度から『ワンコインけんしん』が始まります!!

40歳  
以上のみ



住民の皆様が気軽に検診(健診)を受けられるようがん検診では胃がん・肺がん・大腸がん 検診が各500円で受診できるようになりました!!

特定健診も1500円だったところを1000円で受診できます！

(※国保の方のみ)

年に1回、ご自分の健康を確認する機会にしませんか？

5月14日(土) 場所：保健センター

予約・お問い合わせ  
01634-6-1995

# 図書室だより

## 注目の新着本

### 一般書

#### 『その日まで』

著：瀬戸内 寂聴（講談社）



一筋に生き抜いた。  
切に愛し、いのちを燃やし、ペン  
寂聴99歳、最期の長篇エッセイ。

### 児童書

#### 『理系脳をつくる 食べられる実験図鑑』

著：中村 陽子（主婦の友社）



実験しながら作って、食べて。  
お菓子を作りながら自然と科学が  
学べる！

## 新着図書（3月20日現在）

### 一般向け図書

- ◆『奔流の海』 伊岡 瞬/著  
驚愕と慟哭の青春ミステリー
- ◆『柴犬処方箋』 影山 直美/著  
柴犬から学んだ自分らしく生きるヒント
- ◆『朱より赤く』 窪 美澄/著  
38歳で出家した、ある女性の流転の日々
- ◆『庭は私の秘密基地』 銀色 夏生/著  
日々の楽しみ方がぎゅっとつまった、お庭づくりエッセイ
- ◆『サンセット・サンライズ』 榆 周平/著  
テレワークを機に「お試し移住」そこは魅惑の楽園だった！

### 児童向け図書

- ◆『5たろうとおにがしま』 さわだ ひさな/作  
5人の太郎が鬼を助ける?! 5たろうって誰？
- ◆『あなのなかから…』 さいとう のぶ/作  
作者流の「いないいないばあ」絵本
- ◆『コロッケころくまくん』 志村 まゆみ/作  
ドキドキがいっぱいの食べ物ユーモア絵本
- ◆『ほしのおんがくかい』 齋藤 槿/作  
一番星が輝く頃、星のが落ちてきて…
- ◆『かいじゅうたくはいびん』 澤野 秋文/作  
お届け物は大事なたまご!?これを育てるって、どうしよう…

※その他、多数の本が入荷しています。最新情報は、図書室に一覧表を掲示していますので、ぜひご覧ください。  
また、所蔵してほしい本のリクエストや情報もお待ちしています。

### 利用案内

開館時間…午前10時～午後5時  
休館日…毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 年末年始  
貸出期間…2週間（但し、雑誌は1週間）  
冊数制限はありませんが、節度を守りご利用ください。  
※土日・祝日も開館しています。

### お願い

図書室から借りたままの本は、ごさいませんか？  
玄関横に返却ポストを設置していますので、早めの返却をお願い致します。

貸出予約・  
リクエスト等、  
お気軽にお申し付け  
ください。

TEL/FAX : 01634-6-1170

It is good that we have lived in Nakatombetsu and we would like to live there for long.

— 住んでいてよかった これからも住んでいたい —

海明けの父の後継ぐかこぶ 高橋 恵翠	街路樹のふくらむ芽吹き天をさす 山崎 静女	失せ物を猫に尋ねる四月馬鹿 峰友 緑恵	共に生き六十余年古き雛 高橋 妙子	沖に去る流水背にし船下ろす 東海林 海峯	鹿注意峠超えれば東風の海 武田 雄峰	やまなみ吟社 三月例会
-----------------------	--------------------------	------------------------	----------------------	-------------------------	-----------------------	----------------

### 戸籍だより

3月1日～3月31日受付分  
(公開にご了承いただいた方のみ掲載しています)

### おくやみ

- 字旭台 長野 道江さん (93歳 3月6日)
- 字中頓別 斉木 眞さん (73歳 3月28日)
- 字中頓別 佐々木 正枝さん (95歳 3月29日)



### 酪農振興会さんより 乳製品を提供!

3月10日に中頓別町酪農振興会 澤里会長と藤本副会長、東宗谷農協中頓別支所職員で、中頓別町役場や長寿園、厚生園などをそれぞれ訪問し、乳製品が提供されました。



新型コロナウイルス感染症の影響により、生乳需要が低調となっている一方で、毎日生産されています。北海道産の牛乳や乳製品を飲んで・食べて応援しましょう。

婚姻・出生に係る人口の異動はありませんでした。

### 人のうごき

(令和4年3月31日現在)

世帯	866(-3)
人口	1,599(-32)
男	797(-13)
女	802(-19)

( )内は前月対比

## 編集後記

■ 中頓別中学校、小学校の卒業式、そして、認定こども園の卒園式取材させていただきました。ご卒業、ご卒園おめでとうございます。4月となり、新しい道へと進んでいく方が多くなる季節です。徐々に暖かくなり、春らしさを少しだけ感じられる季節となりました。

稚内市でのサクラの開花予想日は、5月8日となっているみたいですが、中頓別町ではいつ頃に咲くでしょうか。皆さんで、中頓別町のサクラの開花予想日を考えてみませんか。

【さこん】

広報なかとんべつ 4月号 Vol.748

【発行】 2022年4月8日

【編集】 中頓別町総務課政策経営室 TEL 01634-8-7671 FAX 01634-6-1155

〒098-5595 北海道枝幸郡中頓別町字中頓別 172-6

HP <https://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp> e-mail [koho@town.nakatombetsu.lg.jp](mailto:koho@town.nakatombetsu.lg.jp)

【印刷】 有限会社 天北印刷工業